

職業実践専門課程の基本情報について

Table with columns: 学校名, 設置認可年月日, 校長名, 所在地, 設置者名, 設立認可年月日, 代表者名, 所在地, 分野, 認定課程名, 認定学科名, 専門士, 高度専門士, 文化・教養, 文化・教養関係専門課程, 動物看護・栄養管理学科, 平成29年2月28日文部科学大臣告示第30号, 学科の目的, 動物愛護の精神に立ち、幅広い創造性に溢れ、動物管理の専門能力を持つとともに、動物医療・看護に関する知識・技能の習得に加え、受付業務、衛生管理、飼い主対応など動物病院の業務全般にわたって獣医師を補佐できる人材を育成し、地域社会の発展に貢献する。

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成においては、業界及び社会の変化やニーズ、在校生及び卒業生の仕上がり状況等の不断の組織的、継続的検証を行う必要がある。企業等から広く、具体的に意見を求め、高度で実践的な教育課程を編成するために、新たな授業科目の開設における連携はもちろんのこと、現存のシラバスやコマシラバスにまで落とし込める授業内容・方法の改善並びに教材開発につながる連携を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校職業実践専門課程においてより実践的かつ専門的な高度職業教育を行う観点から、企業・業界団体等より業界における人材の専門性に関する動向や求められる知識・技術等について意見を聴き、これを踏まえてカリキュラムや教育方法の改善・工夫に組織的、継続的に取り組むことを目的とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松井 宏治	愛媛銀行(人事教育部)	平成29年4月1日～平成30年3月31日	①
南 博文	愛媛県獣医師会(南動物病院)	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
塚田 祐介	有限会社 MHVC(松山ほうじょう動物クリニック)	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
石川 達也	河原アイペットワールド専門学校		
川邊 大介	河原アイペットワールド専門学校		
本山 陽子	河原アイペットワールド専門学校(学科責任者)		
沓名 竜佑	河原アイペットワールド専門学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期後期終了後に各期総括として開催するため11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年11月9日 17:00～18:30

第2回 平成30年3月22日 16:00～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

インターンシップにおいて実習企業の判断基準を明確にするため、実習評価表・証明書・実習期間について意見をいただき、平成30年度冬季インターンシップ実習(12/26～1/7)から、①5段階評価から4段階評価への変更②1年生用と2年生用に記入フォーマットを分けて作成③企業指導者コメント欄を1名→2名に変更④基本行動や一般常識をメインとした評価項目に変更⑤実習期間の変更(平均1週間～10日での実施)の変更を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携した実習等は、1)学生が校内における通常の実習等では得ることが難しい実践的、専門的な知識や技術等を習得する場であり、2)さらには学習してきた知識や技術の理解度、習熟度を再確認し、3)企業等の関係者から具体的に実践的な評価を得て、学生の実務能力を多面的に開発する機会とする。また学生能力の習得のみならず、その機会を通じて、学校の実習カリキュラムがより実践的な内容になるよう努めることとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

総合臨床実習Ⅱについては、一定の評価基準を設定し企業によっての評価差が出ないよう実習評価表を整備している。また、現場でのニーズなどを具体的に講義するよう依頼している。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合臨床実習Ⅰ	企業理解のための指定動物病院へのインターンシップ実習(1年次)	松山ほうじょう動物クリニック
総合臨床実習Ⅱ	就職希望企業へのインターンシップ実習(2年次)	愛媛県内外の動物関連企業
外科演習	周術管理とエマージェンシーを学ぶ	松山ほうじょう動物クリニック
総合看護演習	入院看護・創傷管理・受付対応・問診・電話対応・クライアント教育	ブルーバード動物病院
動物臨床検査学実習Ⅱ	精密検査の実習・概論・応用(検査の工程から結果までを鑑別・評価し、獣医師への的確な報告のあり方を学ぶ。)	松山ほうじょう動物クリニック

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校の教員研修の基本方針は、1)各教員の専攻分野における実務に関する高度な専門知識・技術の修得、2)およびそれらを授業計画(カリキュラム、シラバス、コマシラバス)に落とし込む能力の修得、3)さらにはその研鑽を実際の授業運営に反映させる教育力の修得を目的として、教職員研修規程第2条に定める研修を受講させることとする。同規程第3条に定めるとおり、所属長及び法人本部総務部責任者は、各教員の実務専門性や教育力の組織的で継続的な向上に努めることとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「WJVJF(動物臨床医学会)学会参加」(連携企業等:公益社団法人 日本動物病院協会)

期間:7月8,9日(土、日) 対象:動物看護・栄養管理学科教員、2年生

内容:日本の獣医療の最新知識を受講し質疑応答などに行い、有識者との意見交換を実施

研修名「動物看護師養成研修会」(連携企業等:一般社団法人 全国動物専門学校協会)

期間:8月23日(水) 対象:動物看護・栄養管理学科教員

内容:高位平準化教育に基づくコマシラバスによる教育の質向上のため、有識者との意見交換を実施

研修名「愛媛県における愛護活動」(連携企業等:愛媛県動物愛護センター)

期間:5月1日(月) 対象:河原アイペットワールド専門学校教員、動物看護・栄養管理学科1年生

内容:愛媛県における動物愛護活動や殺処分状況の講習を受講し、愛護活動取り組みについての意見交換を実施

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「河原学園新人教員研修」(連携企業等:一般社団法人 全国専門学校教育研究会)

期間:4月12日(水)、4月19日(水)、4月28日(金)、5月10日(水)、5月17日(水)、5月24日(水)、5月31日(水)、6月15日(木)、6月20日(火) 対象:2017年度入職の新任教員

内容:全国専門学校教育研究会で実施している研修の教材提供を受け、専修学校制度、職業実践専門課程概要、職業教育のあり方、教育目標・科目目標の設定、シラバス・コマシラバスの作成、授業成果評価、就職サポート、自然災害発生時対応、アカハラ相談等、教育活動に関する業務全般の内容についての研修を実施した。

研修名「内部質保証人材養成セミナー」(連携企業等:一般社団法人 愛媛県専修学校各種学校連合会、JAMOTE認証サービス株式会社)

期間:8月22日(水)、8月23日(木) 対象:学校運営者、教務責任者

内容:各種教育機関に対してISO29990にもとづく第三者評価を実施しているJAMOTE認証サービス株式会社から講師を招き、職業実践専門課程における自己点検・評価の目的、また、その社会的背景や最新動向についての理解を深めるとともに、ISO29990要求事項に立脚した自己評価や内部監査の具体的な手法について学習した。

研修名「精神疾患や発達障害が疑われる学生に対する対応」(連携企業等:人間環境大学)

期間:8月31日(木) 対象:全教員

内容:休退学の防止や円滑なクラス運営の実現を目的に、人間環境大学所属の心理学科教員を講師に招き、自殺企図及び自傷行為のある学生への対応方法と、発達障害やその疑いのある学生への対応方法について学習した。とくに、自傷行為や発達障害に関する基礎知識と関係機関との連携方法に重点をおき理解を深めた。

研修名「学力アップの教授法～記憶への定着方法～」(連携企業等:株式会社ラーンズ)

期間:12月25日(月) 対象:全教員

内容:全国各地の中高大学教員向けの授業改善研修に実績のある株式会社ラーンズから講師を招き、同社の研修実績を活用した授業改善に向けた研修を受講した。とくに、授業成果の適正な評価方法、評価結果の効果的なフィードバック方法という観点から、効率的に知識定着をはかるための指導上の留意点について学習した。

研修名「就職実績を残せる担任」(連携企業等:株式会社アライアンス)

期間:3月27日(火)、3月28日(水) 対象:次年度就職担当教員、就職キャリア支援センターの担当職員

内容:専門学校学生一企業間の採用支援で実績のある株式会社アライアンスから講師を招き、就職支援の戦略的・戦術的実践方法についての研修を受講した。教員の個々の資質によらず内定獲得時期の早期化や就職先企業の質向上をはかるために、担当教員がどのような点に留意して学生の就活スケジュールを管理するか、どのように就活学生と企業の採用担当者との接触機会を増やしていくかについての講義を受講するとともに、現状の学生指導に関する助言を受けた。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「WJVF(動物臨床医学会)学会参加」(連携企業等:公益社団法人 日本動物病院協会)

期間:7月中旬 対象:動物看護・栄養管理学科教員、2年生

内容:日本の獣医療の最新知識を受講し質疑応答などに行い、有識者との意見交換を実施

研修名「愛媛県における愛護活動」(連携企業等:愛媛県動物愛護センター)

期間:5月上旬 対象:河原イベントワールド専門学校教員、動物看護・栄養管理学科1年生

内容:愛媛県における動物愛護活動や殺処分状況の講習を受講し、愛護活動取り組みについての意見交換を実施

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「河原学園新人教員研修」(連携企業等:一般社団法人 全国専門学校教育研究会、JAMOTE認証サービス株式会社)

期間:4月～7月にかけて12回程度を予定 対象:2018年度入職の新任教員

内容:全国専門学校教育研究会およびJAMOTE認証サービス株式会社の講師から研修プログラムの構成について提案および助言を受け、専修学校制度、職業実践専門課程概要、第三者評価、職業教育のあり方、教育目標・科目目標の設定、シラバス・コマシラバスの作成、授業成果評価、就職サポート、自然災害発生時対応、アカハラ相談等、専門学校における教育活動全般に関する研修を実施する。

研修名「専修学校における学校評価と第三者評価」(連携企業等:国立大学法人 愛媛大学)

期間:8月頃を予定 対象:全教員

内容:自己点検評価・学校関係者評価・第三者評価それぞれの概念・制度・手法についての基本的な知識を踏まえ、高等学校・大学・専門職大学院の事例を参照しながら、自己点検評価・学校関係者評価・第三者評価を通して教育活動の質保証・向上をはかるための具体的方法、頻出課題等について学習する。

研修名「自己評価・学校関係者評価研修」(連携企業等:JAMOTE認証サービス株式会社)

期間:9月頃を予定 対象:学校運営者、教務責任者

内容:各種教育機関に対してISO29990にもとづく第三者評価を実施しているJAMOTE認証サービス株式会社の講師から研修プログラムの構成について提案および助言を受け、職業実践専門課程制度にもとづく自己評価、学校関係者評価の実効性向上をはかるための留意事項や具体的方法について学習する。

研修名「統計学研修」(連携企業等:統計学について専門的知見を有する有識者)

期間:12月もしくは3月頃を予定 対象:学校運営者、教務責任者

内容:自己評価をはじめとする学校評価はもちろん学修成果に結びつく各種形成的評価においても、定量的な評価指標の利用が不可欠である。そこで、妥当な評価指標の発見や算出、評価指標の数学的分析に必要な統計学(記述統計学・推測統計学)の基礎知識について学習する。研修内容および利用教材については、統計学について専門的知見を有する有識者からの助言や提案に基づいて決定する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本学全般の運営（経営、教育の現状、およびそれらの短・中・長期課題や方針、社会的責務など）について、学校関係者より意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育成人材像は明確に定められているか
(2) 学校運営	学校組織は明確に位置付けられ、各部署で役割分掌がなされているか
(3) 教育活動	コマシラバスには、その授業のキーポイントや授業の流れ、予復習のポイント、ポイントと関連する詳細な参照文献・資料などが具体的に記入されているか
(4) 学修成果	在籍率、休退学率、出席率、資格取得率について目標は明確に数値化されているか
(5) 学生支援	就職率実績の学内外の公開は、卒業年次5月1日在籍数を元に、休学者数、進学者数、卒業不可者数、無業者数などの内訳と共に示されているか
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか）など
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ方針（アドミッションポリシー）は明示されており、公正かつ適切に学生募集及び入学者選考を行っているか
(8) 財務	財務について会計監査が適正に行われているかなど
(9) 法令等の遵守	学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準などの重要な法律、省令をはじめ、学則や就業規則、その他規則・規程に基づき業務が執行されているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

一般的な計算・漢字などの基礎学力の向上についての取り組み：補習が必要と学内教務会議で判断された学生への補習体制の強化（専任教員が学科を横断し授業を担当することで担任へのサポートができる体制に改編した）

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
河野 美和	在校生保護者	平成29年4月1日～平成30年3月31日	在校生保護者
森岡 大輝	高知食糧株式会社 ペットStep松山余戸店	平成29年4月1日～平成30年3月31日	卒業生
川原 佑樹	ひごペットフレンドリー エミフル松前店	平成29年4月1日～平成30年3月31日	就職先企業担当者
谷本 賢治	松山東雲中学・高等学校 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	高校教員
谷口 祐一	南堀端町内会 監事	平成29年4月1日～平成30年3月31日	地域の有識者
塚田 祐介	松山ほうじょう動物クリニック	平成29年4月1日～平成30年3月31日	教育課程編成委員会委員
井手 一夫	ペットサロン松山	平成29年4月1日～平成30年3月31日	教育課程編成委員会委員
首藤 まゆみ	日本ケアドッグ協会	平成29年4月1日～平成30年3月31日	教育課程編成委員会委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: www.kawahara.ac.jp/ipet/

公表時期: 平成30年11月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自己点検報告の評価を含めた外部評価委員の意見聴取に基づいて審議内容を整理し、学校運営に反映することに務め、審議内容については、公表事項を整理しすみやかに公表しなければならない。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているかなど
(2) 各学科等の教育	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているかなど
(3) 教職員	人事、給与に関する制度は整備されているかなど
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学校における職業教育の特色は明確になっているかなど
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか(講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく整備されているか)など
(6) 学生の生活支援	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)など
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているかなど
(8) 学校の財務	財務について会計監査が適正に行われているかなど
(9) 学校評価	自己点検・評価結果を公開しているかなど
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: www.kawahara.ac.jp/ipet/

授業科目等の概要

(文化・教養関係専門課程 動物看護・栄養管理学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物形態機能学Ⅰ	概論、比較解剖学、血液学、免疫学、形態機能学を通して体の仕組みと働きを学ぶ	1年 通年	60	4	○			○				
○			動物形態機能学Ⅱ	病気の成り立ちと発症のメカニズムを学ぶ (形態機能・病理・免疫)	1年 通年	60	4	○			○				
○			動物疾病看護学Ⅰ	体の仕組みや各疾患の概要・機序・治療・看護についてを器官別に学ぶ	1年 通年	60	4	○			○				
○			動物感染症学Ⅰ	看護業務にて深く関わる感染症とその法律について理解する	1年 前期	30	2	○			○				
○			動物栄養学	消化器や消化吸収の仕組みと栄養素の基礎を学ぶ	1年 前期	30	2	○			○				
○			動物看護学Ⅰ	薬理の総論、体の仕組みと働きについて学ぶ	1年 通年	60	4	○			○				
○			繁殖産科学	繁殖の概論・ブリーディング・分娩新生児管理を学ぶ	1年 後期	30	2	○			○				
○			愛玩動物飼養管理士論	愛玩動物飼養管理士2級合格を目指す。 狂犬病予防法・動愛法・鳥獣保護法・AAE・AAA・HAB・飼養管理・動物愛護を学ぶ。	1年 通年	60	4	○			○	○	○	○	
○			スモールペット飼育学Ⅰ	猫と小動物（ウサギ・ハムスター・フェレット・モルモット・小鳥・チンチラなど）の特徴や飼育管理方法を学ぶ。	1年 通年	60	4	○			○				
○			臨床動物看護学Ⅰ	内部寄生虫、外部寄生虫及び各疾患の概要・機序・治療・看護について器官別に学ぶ	1年 通年	90	6	○			○				
○			グルーミング実習Ⅰ	被毛の手入れ、シャンプー、ブラッシング、コーミング、爪切り、耳掃除、肛門囊、クリッピング、ドライグなどについて学ぶ	1年 後期	90	3			○	○				

(文化・教養関係専門課程 動物看護・栄養管理学科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物飼育実習Ⅰ	学校飼育犬猫について全般の世話をを行う	1年 通年	60	2			○	○				
○			トレーニング演習	犬の基本的な訓練法を学ぶ	1年 通年	60	2		○		○				
○			動物看護実習Ⅰ	看護業務に関わる基本的な看護技術を習得し、各手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる	1年 通年	120	4			○	○				
○			動物臨床検査学実習Ⅰ	各検査の概論を理解し、検査手技を習得する。手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる	1年 通年	120	4			○	○				
○			総合臨床実習Ⅰ	企業理解のための指定動物病院へのインターンシップ実習	1年 後期	88	2			○		○		○	○
○			グルーミング理論	グルーミングに必要な知識を学ぶ	1年 前期	30	2	○			○				
○			コンピュータ実習Ⅰ	ワードの基本技術を習得する	1年 通年	60	2			○	○				
○			就職実務Ⅰ	面接指導やナチュラルメイクやスーツの着こなしなど就職活動に必要な準備を行う。	1年 通年	60	4	○			○		○	○	
○			動物形態機能学Ⅲ	動物看護師資格対策集を行う	2年 後期	60	4	○			○				
○			臨床動物看護学Ⅱ	各疾患の概要・機序・治療・看護について更に深く学び、公衆衛生、ズーノーシス、滅菌、消毒、動物防疫学、実験動物、産業動物、野生動物について学ぶ	2年 通年	90	6	○			○				
○			動物疾病看護学Ⅱ	体の仕組みや各疾患の概要・機序・治療・看護について更に深く学ぶ	2年 通年	60	4	○			○				
○			動物疾病看護学Ⅲ	疾病に関する動物看護師資格対策を行う	2年 通年	60	4	○			○				

(文化・教養関係専門課程 動物看護・栄養管理学科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物薬理学	薬剤の各特性について学ぶ	2年後期	30	2	○			○				
○			動物感染症学Ⅱ	感染症における看護法を深く学ぶ	2年前期	30	2	○			○				
○			臨床栄養管理学	栄養学の更に深い知識について学び、動物臨床栄養管理士資格取得に関わる知識を習得する	2年通年	90	6	○			○				
○			動物行動学	犬猫の発生起源、犬種別特徴から行動の意義と機序を学ぶ	2年通年	60	4	○			○				
○			スモールペット看護学	猫と小動物について疾患管理を学ぶ	2年後期	30	2	○			○				
○			動物看護学Ⅱ	動物看護における看護方法を疾患別、管理別に学ぶ	2年通年	30	2	○			○				
○			総合看護演習	入院看護・創傷管理・受付対応・問診・電話対応・クライアント教育について学ぶ	2年通年	60	2		○		○				○
○			外科演習	周術管理とエマージェンシーを学ぶ	2年通年	60	2		○		○				○
○			グルーミング実習Ⅱ	被毛の手入れ、シャンプー、ブラッシング、コーミング、爪切り、耳掃除、肛門囊、クリッピング、ドライイングなどについて学ぶ	2年前期	90	3			○	○				
○			動物看護実習Ⅱ	看護業務に関わる応用・臨床的な看護技術を習得し、チーム医療に結びつけるようにする	2年通年	120	4			○	○		○	○	
○			動物飼育実習Ⅱ	学校飼育犬猫について全般の世話をを行う	2年通年	20	1			○	○				
○			動物臨床検査学実習Ⅱ	精密検査の実習・概論・応用（健康チェック実習を行い、検査の工程から結果までを鑑別・評価し、獣医師への的確な報告のあり方を学ぶ。	2年通年	120	4			○	○				○

(文化・教養関係専門課程 動物看護・栄養管理学科) 平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合臨床実習Ⅱ	就職希望企業へのインターンシップ実習	2年前期	112	3			○		○		○	○
○			コンピュータ実習Ⅱ		2年前期	30	1			○	○				
○	動物臨床検		就職実務Ⅱ	面接指導など就職活動に必要な準備を行う	2年前期	30	2	○			○		○		
合計					38科目		2410単位時間(119 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> 履修するすべての科目において、S・A・B・Cいずれかの評価を得ること 原則として出席率90%以上であること 	1学年の学期区分	前後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。